



(沖波十三塚)

連絡先: 927-0014 鳳珠郡穴水町握りの197

教育相談室あけ塾事務局

0768(56)1152(FAX兼用)

穴水再発見の旅²⁰²³

令和5年11月17日

諸橋探訪
あけ塾探訪



(明子町 千間用水のマンボウ)

主催 教育相談室あけ塾

穴水再発見の旅「諸橋探訪」 スケジュール

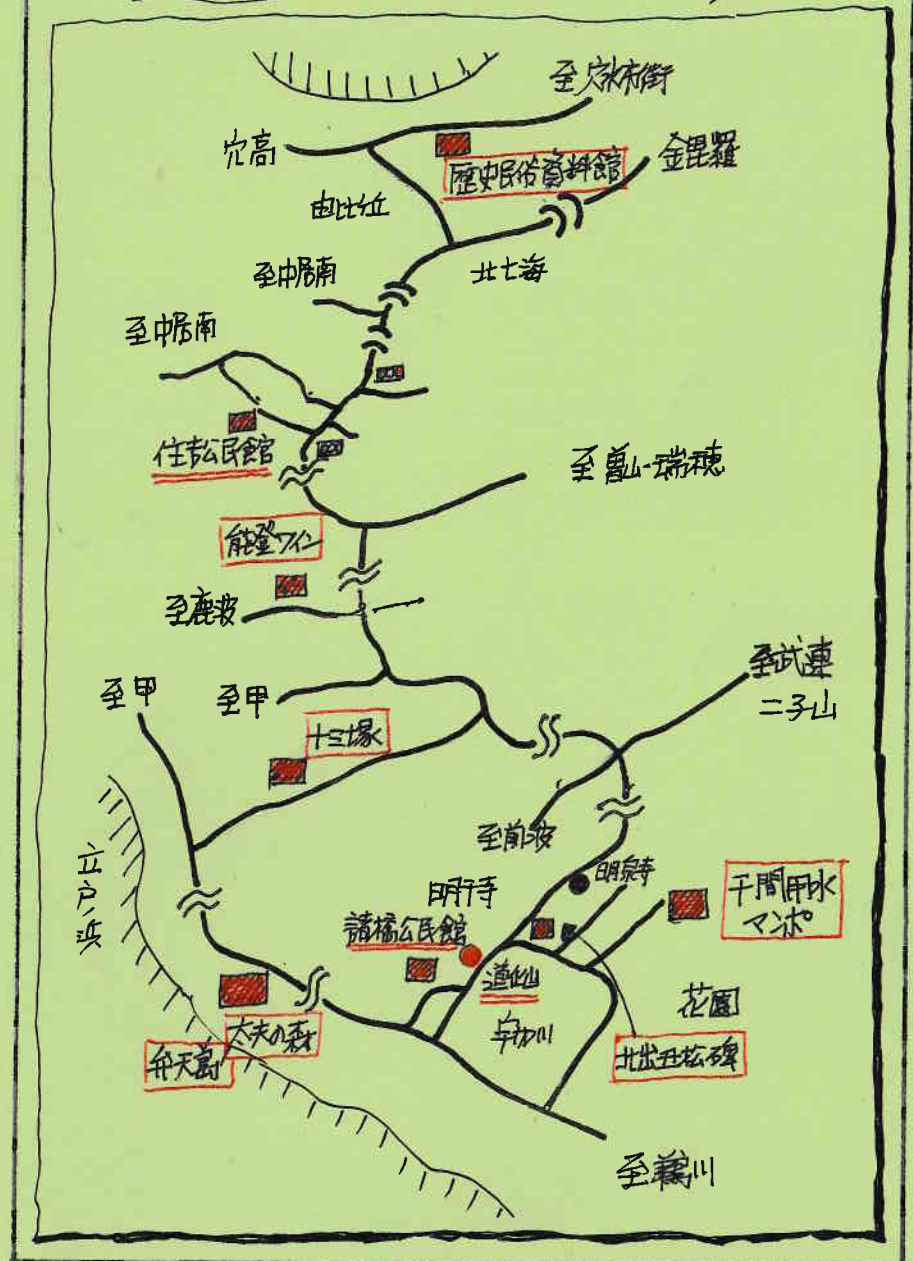


令和5年11月17日(金)

- 9:00 穴水町 住吉公民館集合・オリエンテーション
- 9:10 出発
- 9:20 沖波十三塚
- 9:45 前波 太夫の森・弁天島(海瀬神社)
- 10:20 諸橋公民館
- 10:35 明干寺 北出丑松翁石碑
- 10:50 千間用水の「マンボ」入口
- 11:35 能登ワイン
- 12:00 住吉公民館
- 12:15 穴水町歴史民俗資料館
- 12:35 解散

この穴水再発見の旅「諸橋探訪」は北国新聞社後援です。

※17- 移動経路図です。



沖波十三塚

沖波集落の北方、「十三塚」は標高30Mほどの地点の如く平坦な段丘上山林にあります。この段丘からは立山連峰が一望でき、昔の村人たちにとっては心休まる場所であったのではないかと思います。

ここに、直径6Mほど、高さ1.5Mほどの塚を中心に、高さ50cmほどの種子陰刻の板碑が立っている13の塚が南東140Mほどの間に並んでいました。当時の村人たちは



(十三塚から沖波集落を望む)



塚の板碑を地蔵尊として祈願していたのではないかと推察されます。

しかし、残念なことに現在は道路貫通のために2基が破壊されています。貴重な遺跡など文化財に関して、十分の配慮、保全の意識が培われていないことが結果ではないかと思ひます。

石田茂作博士のX書きには図が書いてあり、沖波から山中方面に（整備され、見えるようになった塚の板碑）向かって道路の左側に9基、右側に3基あり、道路の貫通により、

1基が破壊されている形になっています。その破壊された1基が「法華經の1石1字が出土！保管場所、調査中」の書き出しがあります。その後、道路拡張で、もう1基が破壊されたようです。

当初、13基が完全な形で残っているのは全国的にも稀といふことで、惜しいが、残念な状況であると言えます。

昭和38年(1963)4月12日、
国文化財史跡指定になっている。



石田茂作氏 諸橋村(当時)を調査



石田茂作

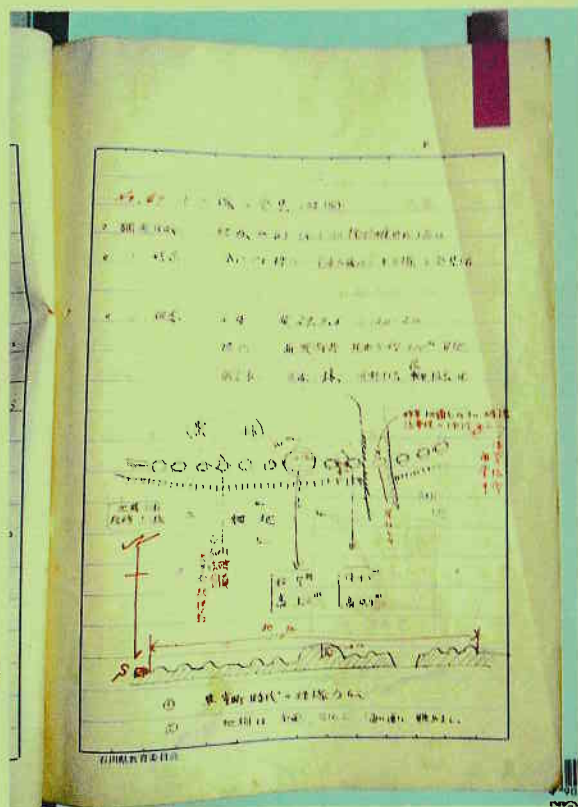
愛知県碧海郡矢作町(現・岡崎市矢作町)に生まれる。

日本の仏教考古学者。文学博士。岡崎市の名誉市民。明治時代から学界論争にたった。法隆寺再建説を1939年に石田博士が発掘調査をし、金堂跡と塔跡を発見し、法隆寺が再建されたと確定。1977年、82歳で生涯を終える。

(ウイキペディアより)

昭和29年(1980)9月、東京国立博物館学芸部長であった石田茂作博士が当時の諸橋村の明泉寺、鎌倉屋敷沖投十三塚を調査している。

調査では、仏像や経巻の発見がはげしく、室所時代の重要な遺跡と判明しています。



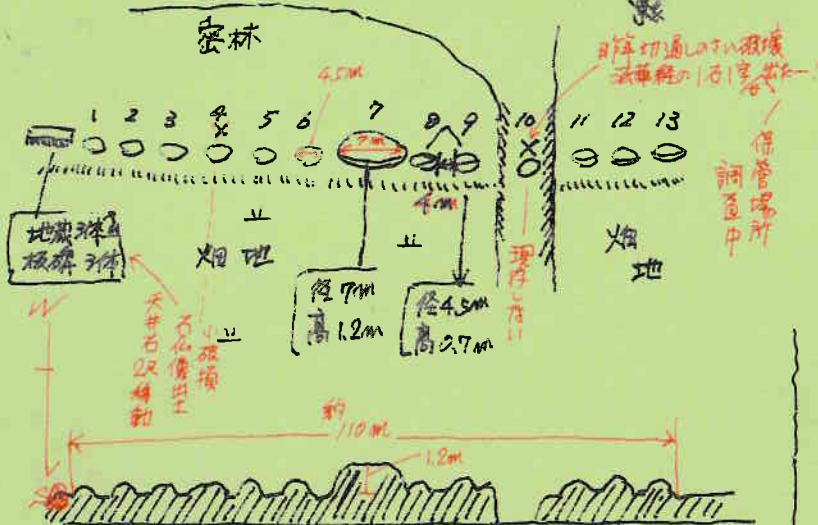
沖投十三塚調査時のX書き(歴史研究家提供)

石田茂作博士のX書きの写しです。

実物は読みづらいところもあったので書き写しました。ただ、調査者の中に「波野村長」とありおぼやかり、このとき村長は波出薩三郎氏なので、誤記と思われる。

No. 7 十三塚X発見(経塚)

- 調査目的 経塚があるという伝説を確かめるため
- 結果 全口でほぼ完全に近い十三塚を発見した
- 概要 日時 昭29.9.6 12:00~2:00
場所 前波部落 北西方 約600m 台地
調査者 石田、林、波野村長、菅田校長 他



- ① 室所時代の経塚存らん
- ② 地相は南面 台地上 海に面し、跡のよし



(海上に立つ海石)

十三塚の謎

さて、この沖波十三塚に1つの謎が
出てきました。石田英作博士の調査のメモ
書きには、最も大きい塚に立っている1.5mほ
どの海石の石柱の2つには触れていません。

(「宍戸町の文化財」)
そのため、この石柱は、石田博士らの調査のあ
と、誰かが建てたものではないか... という説が出てきたのです。

しかし、昭和38年(1963)に町文化財史跡指定に
なっています。昭和40年(1965)発行の「宍戸町の文化財」(長谷進
編著)には石柱の写真が載っています。もし、後から建てられた
ものであるなら、昭和29年9月の調査以降から昭和38年頃
の間(およそ9年間)ということがあります。

あんなだけの石を海から運んできて、梵字を彫って建てたとしたら、
地域では話題に
なったと思いますし、新
聞報道もあったのでは
ないかと思われていますが、
そのような資料は見つ
かていません。

どうやら、この謎を
解明してもらえませんか。

「謎めかすぞうい」との声も...



(現在の十三塚・石柱付近の様子)

蘇る歴史

この十三塚は、室町時代、こ
の地方の弥勒信仰を示す重
要遺跡ですが、長期間にわた
り訪れる人もなく埋もれたま
まになっていました。

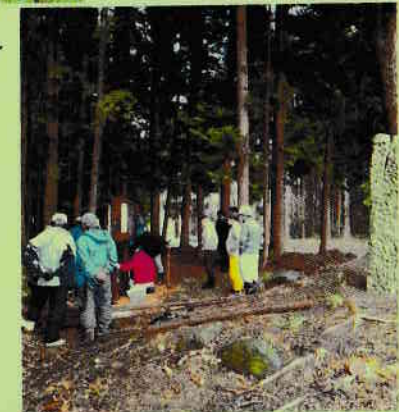


令和4年(2022)
2月・沖波地区住民と
応援ボランティアで、荒
れ放題の塚の整備作

業を行いました。すべての塚が姿
を現しました。(11基です。)

その後、同年3月、「沖波十三
塚」の説明看板などが建て
られ、訪問者を受け入れる準
備は整いました。

多くの人に、この十三塚を通じ
歴史のロマンに触れてほしいですね。



(説明看板の設置)

前波太夫の森

「^{もりを}森出海岸の津無良山を太夫の森とよぶ。能太夫諸橋権之進の先祖の居住地と伝え、丘上の^{ぼん}祠の神体も^{ようきょく}謡曲にかかわる木造親の神である。8月の祭礼には神輿とキリコが当地に集まり宵祭が始まる。諸橋居住の権之進は加賀国守護富樫氏に召出され、5人の能太夫の座頭に仰せ付けられたという(国事雑抄)。」



諸橋稲荷神社の祭礼の際の御旅所

(平凡社「日本歴史地名大系」より)

諸橋権之進

権之進は前波の人なり。その居跡を太夫の森といふ。古、前波に5人の能太夫がいたが、権之進はその座頭で、たびたび諸橋稲荷社の神事に勤仕した。中頃、加賀に移り、天文の頃から慶長の頃まで60余年能美郡に居住していた。守護富樫氏の能太夫になっていたが、後に前田氏に仕え、明治維新に至り、加賀室生流の祖。

(諸橋村史、穴水町教育委員会 参考)

あぶきの面



あぶきの面(尾山神社蔵)

前波に権之進という人ばいて、一本木崎の浜で塩田を造っていた。夜、謡を口おさしおぼろ魚釣りをしていたとき、突然、竿に手ごたえが有り、揚げてみると針の先に「翁の面」が、謡を唄いながら揚がってきた。この謡が前田の殿様の耳に入り、

権之進が丹城まで持っていった。本物と模造の面を見せしめ、権之進は模造の面を自分のものと言い、それを持ち帰り、諸橋稲荷神社に奉納した。後日、権之進は殿様の招きで謡の師匠となり、このとき、諸橋権之進と命名された。

太夫の森に権之進の屋敷跡があり、昭和13年(1938)頃まで格子戸のある家が建っていたとのこと。また、前田の殿様に渡った本物の「翁の面」は金沢市の尾山神社に奉納されているとのこと。 (「民謡集 むろはし」より)

諸橋権之進が諸橋稲荷神社に寄進した尉面、女面、かく面は、現在、町指定文化財として穴水町歴史民俗資料館で展示している。



尉面



女面



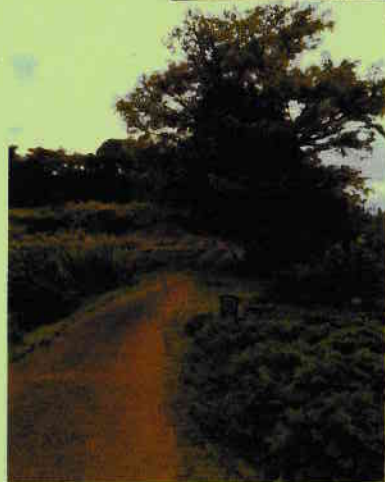
かく面

(穴水町歴史民俗資料館蔵、穴水町国書館の協力)

道化山(ね)



(大木町歴史民俗資料館蔵)



現在の道化山に向かう道。
祭礼の折、明子集落の御
輿が上りていったそうです。

この山の頂上に古くは、三重の塔
が建っていて、その南下の宇加川地
内に舞台があり、諸橋権之進が
舞や謡を奉納したそうである。

現在は、頂上が白雉神社の祭
典執行の場であり、その下の舞台跡
地は、若宮八幡神社の祭典執行の
場である。

頂上からは眼下に富山湾を眺
める景色のよいところである。

(伝承冊子 もうばし 道端忠蔵記)

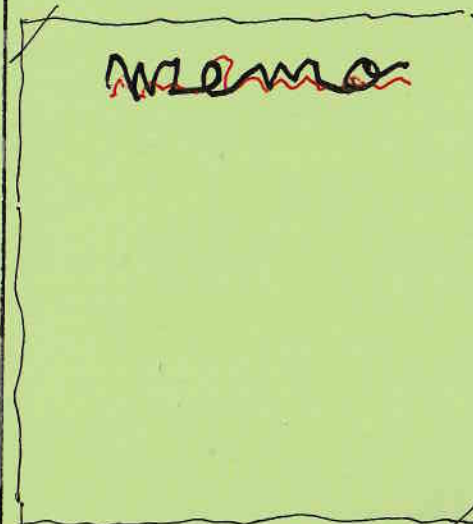
道化山頂から

「道化山頂から富山湾を
眺める景色のよいところ」と言
われているが、今は木々も大きくなり、残念ながら海
を見ることはできません。明子集落の方も見づらくなっ
ています。昔の人は、このあたりで舞や謡を楽しんだのか
と想像する
かありません。

今は少し荒山
になっています。祭
礼時は地区住
民が草刈り等
をしまして、祭礼の
準備をしている
そうです。



(道化山の頂上から明子集落を)



(御輿を休ませる台)

奥比寿弁天神社(前波)



大分県前波の弁天島にある奥比寿弁天神社。非常に景観に優れているが、地元の人ほとんどわからないような、とてもわかりにくいところにある。特に弁天島を指し示す標識もなく、入口の道も見えないので、何も知らずに行って、まず見つからない。この弁天島に関する情報はなく、隠れた名所といえる。(ネット書き込み)



(「たたり岩」と思われる)

びざい天のた

「たたりい だりい びざい天のたたりい。」越中富山の船頭の仕事は越中の石割をあちこちの港で下ろし、能登の木材を持って行き、越中の業者へ売る仕事だった。

前波で仕事を終えた船頭は

弁天島のきれいな石を庭石にするため持ち帰ったところ、庭は見違えるほど立派になったが、身体が動かなくなってしまった。祈禱師に「びざい天のたたり」と言われ、たたり船頭は、その石をもとの弁天島に戻し、海瀬神社(奥比寿弁天神社)にお参りして謝ったところ、身体は元通りになったという。このような話が残っています。この石は、今も海瀬神社の前にあり、「たたり岩」と呼ばれているそうです。前波石は有名で、たくさん切り出されたけれど、弁天島の岬の石だけは持って行く人はいなかったそうです。

平成8年3月に弁天島遊歩道ができ、人々の参りを待っています。

(前波石は鎌倉時代より採石利用されています。)



(「石集おはしり」) (遊歩道)

天川源水町 明千寺 千間用水

(野中用水とも言われている)



(最も長い16mのマンボの入口)

天川源水町明千寺は、かつては荒れ地で農作物の栽培には適さない土地でした。明治時代、この地区を水田にして住民を豊かにしたのが明千寺村の北出丑松です。丑松は大阪で測量技術を

習得し、明治36年(1903)に明千寺村の米の収穫量を増やそうと開墾作業に着手し、近隣の武連・二子山から水を引くための用水路を建設し、3年後に4町5反(4.5ha)の新田開拓に成功しました。この用水路を「千間用水(または野中用水)」と呼んでいます。(諸橋村史、諸橋人物史他参考)

マンボに向かう道

千間用水のマンボに向かう道は荒れていたが、地元の方が整備してくれました。



マンボの中は

高さ約180cm、横幅約90cm。先人はどのようにして掘ったのか。

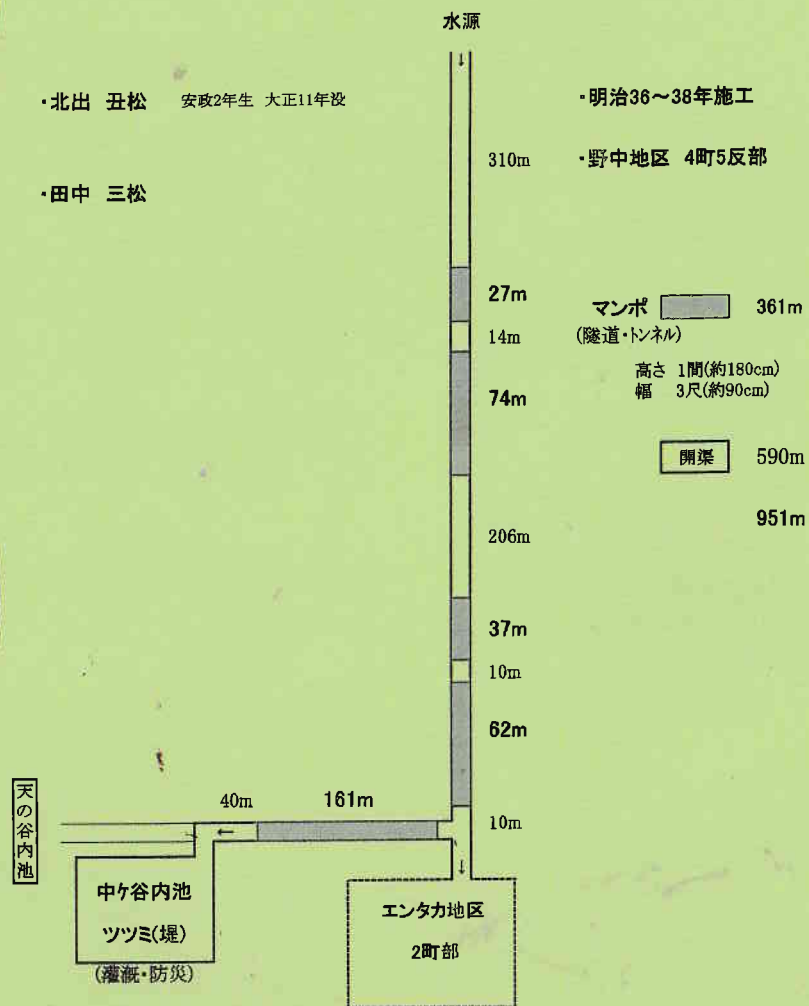


野中地内

千間用水の恩恵を受けている野中の田んぼです。今も…です。

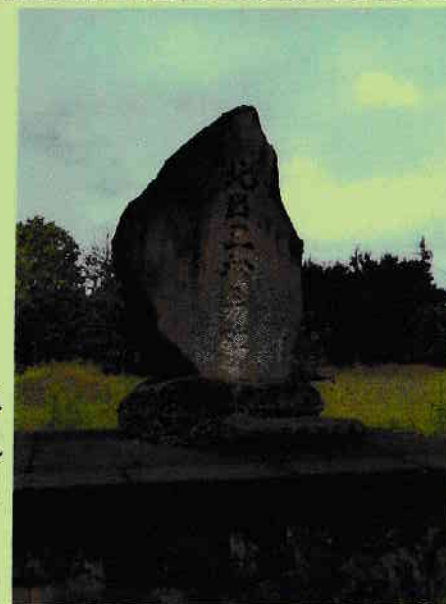
せんげん しょうすい の せめ しょうすい
 千間用水 (野中用水) 略図 (明千寺 星野清一氏)

センゲン用水略図
 (千間用水?)



北出丑松
 田中三松

北出丑松は安政2年
 6月、明千寺の高田郎兵衛
 の2男に生まれ、24歳のと
 きに同村北出六助の養嗣
 子になりました。



(北出丑松翁の碑)

明治36年、集落に水田を
 作るため、山に幾本もの隧道を掘り、数本の用水路を造りま
 した。武連の三山の麓の水をゆめいし、3年後に開田に
 こぎつけた。大正11年に67歳で生涯を閉じていた村
 民、村民は感謝の意を表す「顕徳(こうとく)の碑」を建
 てました。

田中三松

は15歳のとき、明千寺村の青
 年会に入り、村のために湧水を
 溜める「長め池」を13日間
 完成させました。穴掘り名人と
 言われ、三松は北出丑松と
 ともに千間用水路を造ったの
 です。(諸橋人物史、民話集せり)



全国マンボ

三重県「片樋まんぼ」

三重県 いちべ市に200年以上も前、江戸時代に造られた「片樋まんぼ」といふ農業用水路が現存しているといふことです。最近では大規模なかんがい事業が行われ、次第に使われなくなり多くのマンボは埋め立てられているそうです。片樋地区では、毎年「まんぼ祭」が行われ、先人の偉業をたたえるとともに水利の安全を祈願しているといふことです。



(いちべ市指定史跡)



石川県「舟屋川マンボ」

石川県七尾市には世界農業遺産の2つのマンボがあります。田鶴浜の舟屋川のマンボと、深見の「深見村のマンボ」です。舟屋川のマンボは約170年前に新田開発の折、二ノ宮川からかんがい用水を引くため、山を貫通して大小2本のマンボを造ったといふことです。延長70m。深見村のマンボは全長約300mといふことです。どこのあるかわからないといふことです。(いずいもインターネットから)



マンボとは



「マンボ」とは農業用の地下水路のことです。この語源は、小学館の「日本方言大辞典」によると「マンブ」とは「トンネル」「隧道」のことです。福井や京都で使われ、石

川でも、そのように言うそうです。また、「マンボ」などは東海、東北などでみられるそうです。その語源ですが、「まぶ(間府)」らしいです。鉱山の坑道のことです。「間風」と書く地方もあるといふことです。(インターネットより)

マンボ

能登ワイン



能登ワインの原料は地元の農家と共に心をこめて育てられたブドウです。

穴水湾で採れるカキの貝殻を土壌に混ぜこめていす。



ミネラル豊かでさっぱりした酸味が際立つ個性豊かなワインを、ぜひご賞味ください。

(インターネット ぶらぶら401284)

穴水町歴史民俗資料館



(穴水町歴史民俗資料館・長家史料館)

奥能登の玄関口にあたる穴水町は、古代より陸路と海路が交錯する交通の要所。波静かな七屋北湾は様々な文化をこの地に育み、この町の歴史の中にとどめてきました。

この地域性の中、穴水町の歴史を総合的に調査・研究し、とくに散逸しがちな歴史的・文化的資料の収集・保管を目的とした穴水町歴史民俗資料館が昭和49年11月に完成しました。この資料館では収集された貴重な資料を展示し、来館者の教養を高めるとともに、郷土文化の向上に役立てるようになっています。(穴水町教育委員会)